

妊産婦についての調査(I)

— 腹帯(1) —

谷山 和美・和田みどり*・藤田 光子

Researches on Pregnant Women and Nursing Mothers (I)

Belly-Band (1)

Kazumi TANIYAMA, Midori WADA and Mitsuko FUJITA

緒 言

妊産婦の衣服について、その着用の実態を知るため、全国7地区(1都、1道、1府、22県)において、

アンケート調査(調査票I・II)を行ない、そのうち今回は腹帯について地区別に集計整理し、腹帯着用の実態・腹帯に対する意識などについて検討したのでその結果を報告する。

表1 アンケート用紙
調査票(I)

1. 妊娠中、腹帯をしましたか。

1. した	2. しない
-------	--------

「した」と答えた方は2~5の間に記入または○をつけ、「しない」と答えた方は6の間に記入して下さい。

2. 腹帯はいつ頃しはじめましたか。

か月頃	の	1. いぬの日	2. その他の日
-----	---	---------	----------

3. 主に使用した腹帯に○を、時々使用したものに△をつけて下さい。

1. 帯状(さらし木綿)	2. コルセット型	3. その他
--------------	-----------	--------

4. 帯状の腹帯に字や絵が書いてありましたか。 記入または○をつけて下さい。

1. 字が書いてあった	2. 絵が書いてあった	3. 何も書いてなかった
どんな字ですか 1. 寿 2. いぬ 3. その他 ()		
何の絵ですか		

5. 腹帯の入手方法と材質を線で結びその枚数を記入して下さい。

入 手 方 法		材 質	枚 数
1. 自分で買った	-	1. さらし木綿	
2. 実家から頂いた	-	2. 紅 絹	
3. 婚家から頂いた	-	3. 白 絹	
4. 仲人から頂いた	-	4. 伸縮性のもの	
5. そ の 他	-	5. そ の 他	

6. 腹帯をしなかった理由を書いて下さい。

以下省略

調査方法

アンケート調査は、1976年3月から5月までの間に20～50歳代の経産婦を対象とし、各地区の保健所・大学などを通して依頼した。調査に用いたアンケート用

紙は表1のとおりである。調査地区および県別の例数は図1のとおりで、総計2,186例(回収率94.4%)である。

なお、統計処理は、北海道・東北・関東・中部・近畿・中国・四国(九州を含む)の7地区に区分して行な

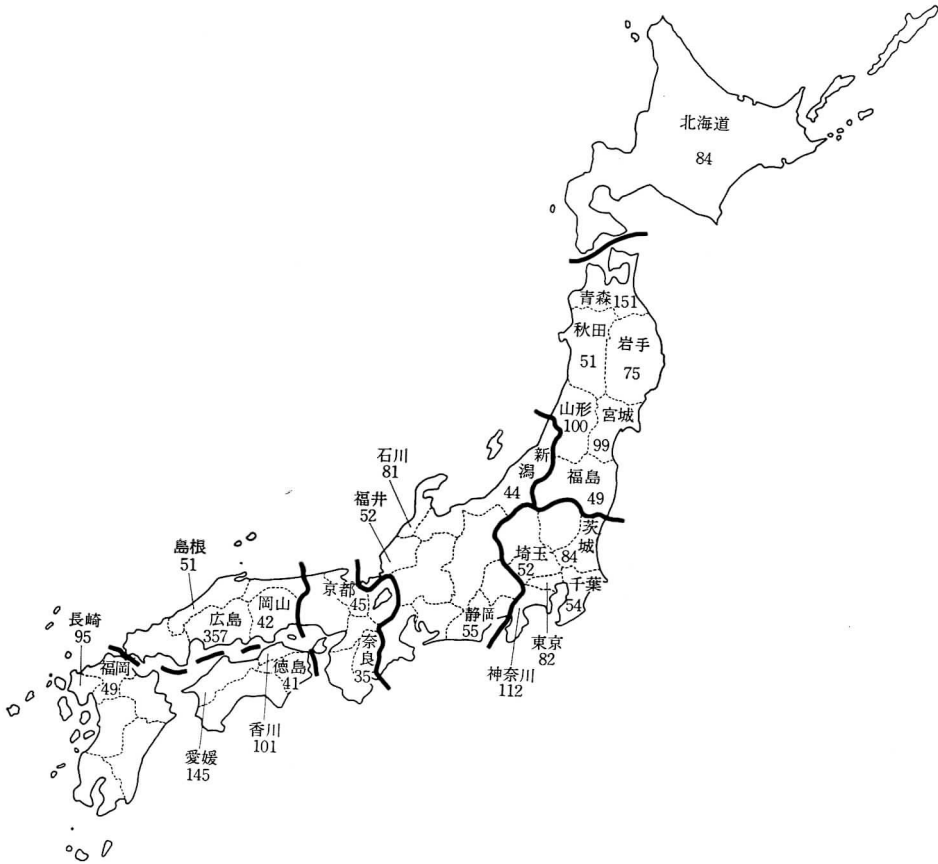


図1 調査地区(数字は例数を示す)

表2 地区別・年代別の例数・百分率

地区別	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
北海道	10	11.9	29	34.5	42	50.0	3	3.6	84	100.0
東北	255	48.6	187	35.6	63	12.0	20	3.8	525	100.0
関東	243	63.3	117	30.5	23	6.0	1	0.2	384	100.0
中部	143	61.6	80	34.5	9	3.9	0	0.0	232	100.0
近畿	26	32.5	33	41.2	17	21.3	4	5.0	80	100.0
中国	169	37.5	186	41.3	88	19.6	7	1.6	450	100.0
四国・九州	202	46.9	144	33.4	67	15.5	18	4.2	431	100.0
全国	1,048	47.9	776	35.5	309	14.1	53	2.5	2,186	100.0

った。その地区別・年代別の例数・百分率は表2のとおりで、20～30歳代が多く83.4%である。

結 果

腹帯着用の実態

妊娠中の腹帯着用の実態についてみると、表3のと

おりで、全国では腹帯を着用したものは98.8%（2,159例）、しなかったものは1.1%（24例）、無回答は0.1%（3例）で、殆んどのが着用している。（以下無回答を除く）

地区別にみると、北海道・中部・近畿・中国・四国は98.7～100.0%、東北・関東はともに97.9%のもの

表3 腹 帯 着 用 の 実 態

地 区 別	着 用 し た		着 用 し な か っ た		無 回 答		計	
	着 用 例 数	%	着 用 し な か っ た 例 数	%	無 回 答 例 数	%	例 数	%
北 海 道	84	100.0	0	0.0	0	0.0	84	100.0
東 北	514	97.9	11	2.1	0	0.0	525	100.0
関 東	376	97.9	8	2.1	0	0.0	384	100.0
中 部	231	99.6	1	0.4	0	0.0	232	100.0
近 畿	79	98.7	1	1.3	0	0.0	80	100.0
中 国	447	99.4	1	0.2	2	0.4	450	100.0
四 国・九 州	428	99.3	2	0.5	1	0.2	431	100.0
全 国	2,159	98.8	24	1.1	3	0.1	2,186	100.0

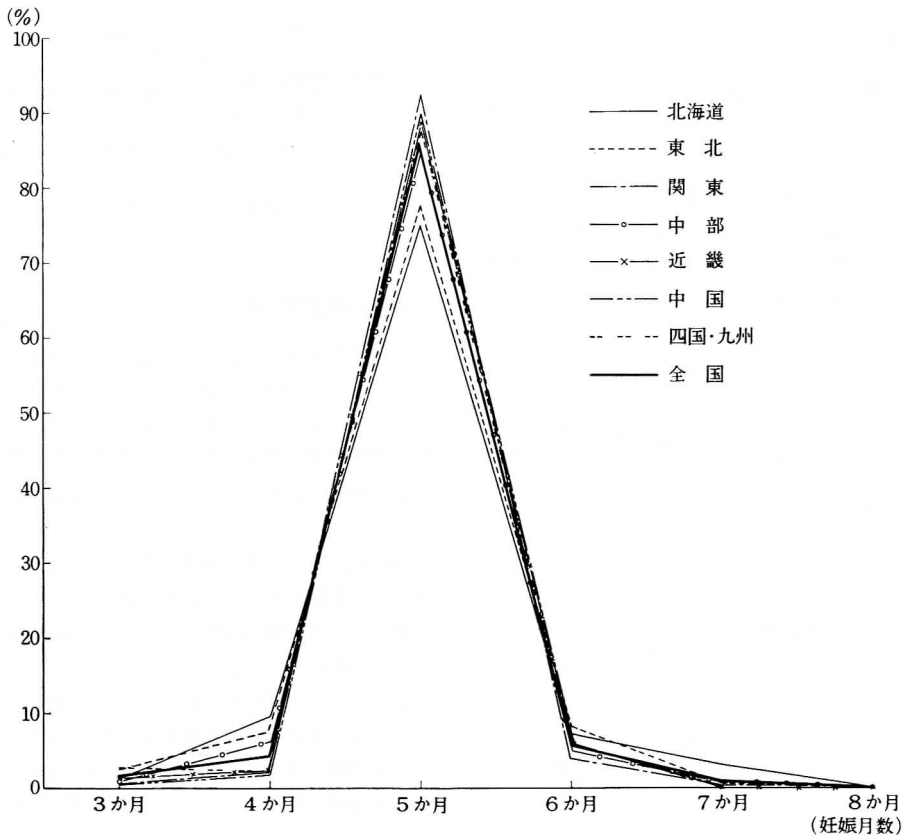


図2 着 帯 月

が着用しており、着用しなかったものはきわめて少ない。

なお、着用しなかったものの主な理由をあげると、「必要を感じなかった」「医師の指導」「苦しい」「ずれる」などである。

着 帯 月

(腹帯を着用した2,159例を100%とする)

腹帯を着用しはじめた月をみると、図2のとおりで、全国では妊娠3～8か月とかなり個人差がみられるが、5か月からが非常に多く85.5%で、6か月は5.7%、4か月は4.3%である。

地区別にみるとほぼ全国と同じ傾向で、北海道・東北をのぞく各地区では5か月に着用しはじめたものは84.3～92.0%で、6か月の終わりまでに97.2%のものが着用している。

なお、北海道・東北は5か月にこだわらず着用しはじめる月がやや早い傾向で、前者は3～4か月が10.7%、後者は10.3%である。

着 帯 日

腹帯を着用しはじめた日をみると、図3のとおりで、全国では「戌の日」が71.3%で最も多く「その他の日」が26.5%、「無回答」が2.2%である。

地区別にみると全国とはほぼ同傾向で、「戌の日」に着用しはじめたものが最も多いのは四国の80.1%で、次は中国の77.8%、近畿の73.4%、少ないのは北海道の61.9%、東北の59.1%である。

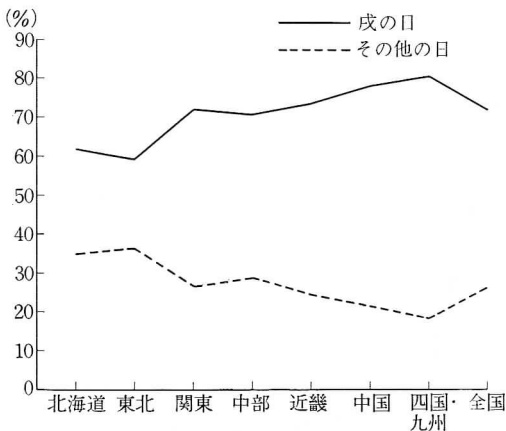
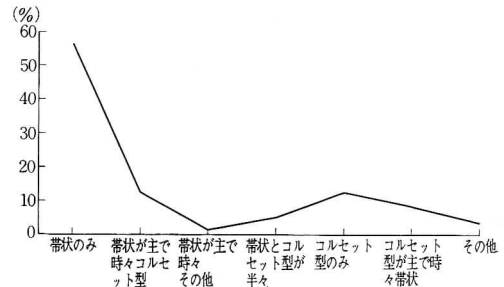


図3 着 帯 日

着用した腹帯の種類

着用した腹帯の種類をみると、図4のとおりで、全国ではさらしの带状腹帯(以下带状と略す)を着用したものが最も多く56.2%、「带状が主で、時々コルセット型腹帯(以下コルセット型と略す)」を着用したものの12.2%、「带状が主で、時々その他」1.5%、「带状とコルセット型が半々」5.0%、「コルセット型のみ」12.3%、「コルセット型が主で時々带状」が8.2%である。

地区別にみると、带状を着用したものは中国の68.0%が最も多く、次は北海道の65.5%、関東の57.2%で、中部の45.0%を除いては、いずれの地区も50%以上が带状を着用している。



(注) 带状 腹帯を带状、コルセット型腹帯をコルセット型と略す

図4 着用した腹帯の種類(全国)

腹帯の祝文字・絵

腹帯に祝文字や絵が書いてあったものをみると図5のとおりで、全国では40.5%である。(以下これを100%とする) そのうち文字のみ書いてあったものは88.4%、絵のみ書いてあったものは7.0%で、文字が書いてあったものが非常に多い。なお、文字と絵は4.6%である。

地区別にみると文字が書いてあったものは、関東が50.8%、中国が47.4%、近畿が40.5%で多く、北海道を除くその他の地区は23.5～35.1%、北海道は非常に少なく4.8%である。

また、絵は近畿に多く11.4%、他の地区は3.5%以下である。文字と絵は近畿が最も多く8.8%、関東3.2%、他の地区は1.9%以下である。何も書いてないものは北海道の83.3%、次いで東北64.0%、中部62.8%でその他の地区は52.1%以下である。

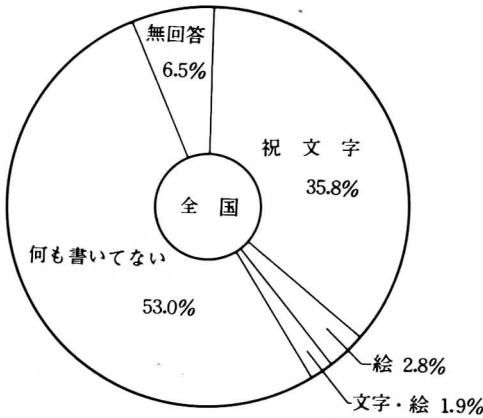


図5 腹帯の祝文字・絵

祝文字の種類

祝文字のみ書いてあったものを見ると、図5に示すように、全国では35.8%である。これを100%とすると図6のとおりで「寿」が最も多く82.3%、「戌」は11.1%、「その他」6.6%である。「その他」には吉日、戌日、安産、病院名、年・月・日、祝、名前などがみられる。

地区別にみると、「寿」が多く各地区とも60%以上で、そのうち最も多いのは中国の82.5%である。

また、「戌」は東北の18.8%が最も多く、次は関東の10.4%、北海道を除くその他の地区は7.0~9.1%で、北海道は皆無である。

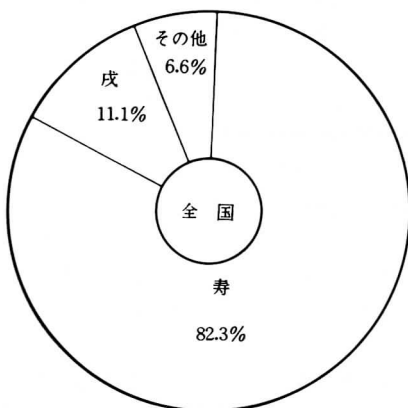


図6 祝文字の種類

絵の種類

絵の書いてあったものを見ると、図5に示すように、全国では4.7%である。これを100%とすると図7のとおりで「犬」の絵が最も多く81.0%、「観音さま」3.8%、「つる・かめ」「かめ」各々2.5%、「その他」は松・竹・梅、赤ちゃん、鈴、紋、つるなどである。

地区別にみると、「犬」は中国が100.0%、次は近畿の93.0%、東北の87.6%でその他は約70%である。

なお、東北のみに「松・竹・梅」が6.2%、関東のみに「赤ちゃん」と「鈴」がともに7.1%、中部のみに「紋」が10.0%、近畿のみに「つる」が7.0%、四国のみに「観音さま」が17.6%みられ、地区の特徴があらわれている。

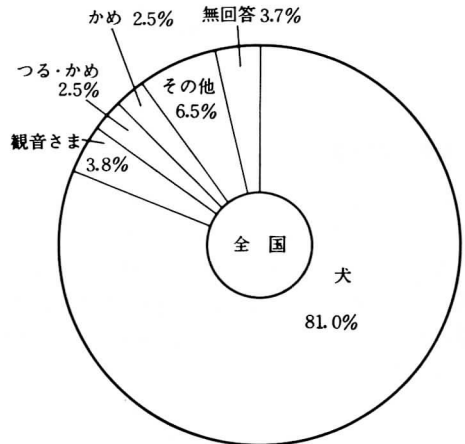


図7 絵の種類

入手方法

腹帯の入手方法をみると図8のとおりで、全国では「自分で買った」は40.0%、次は「実家から」28.3%、「自分と実家」11.9%、「婚家から」5.5%で、むかしから腹帯は仲人が祝の意をこめておくる風習があると云われているが、仲人がおくれたのは僅か1.2%である。

地区別にみると「自分で買った」のは北海道が最も多く73.0%、次は東北54.9%、中部・関東・四国・中国は31.1~37.8%、近畿は少なく23.5%である。

また、「実家から」は中国が最も多く37.8%、次いで中部・近畿・四国の順で、少ないのは関東22.6%、北海道17.5%、東北14.7%である。

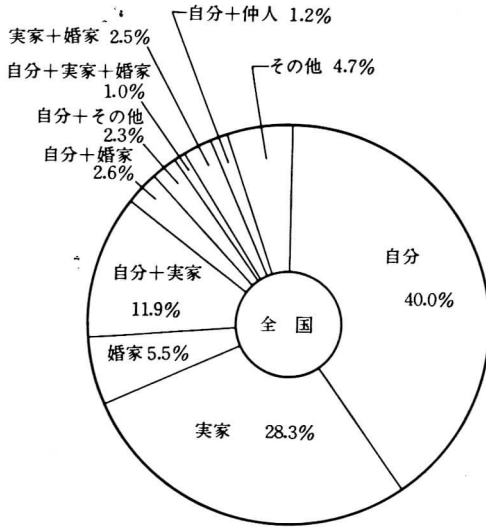


図8 入手方法

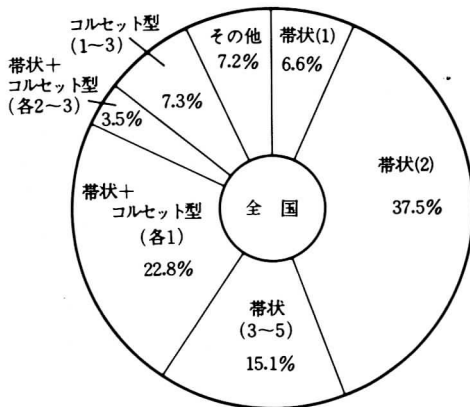
材質・所持数

材質をみると、帯状はさらし木綿・絹（白・紅）、コルセット型は伸縮性（木綿）のものである。

所持数についてみると、全国では図9のとおりで、帯状2本が最も多く37.5%、帯状3～5本が15.1%、帯状1本とコルセット型1枚が22.8%などで、所持数は各人により差がある。

地区別にみると、全国とほぼ同傾向である。

なお、腹帯に白絹・紅絹などがあるが、これらは実際には着用されていないようである。



() 内の数字は所持数

図9 腹帯の所持数

結 語

以上の結果を要約すると次のとおりである。

1 腹帯着用を全国についてみると、98.8%が着用し、しないものは僅か1.1%である。

2 着帯月をみると、着用はじめは妊娠3～8か月で個人差がかなりあるが、5か月が85.5%で非常に多い。地区別にみると北海道・東北は寒冷地のためか着帯月がやや早い傾向である。

3 腹帯を着用しはじめの日は「戌の日」が最も多く71.3%である。地区別にみると、四国・中国・近畿の順に、その傾向が強い。

4 さらし木綿の帯状腹帯のみ着用したものは56.2%で、帯状とコルセット型腹帯を併用したものの26.9%、コルセット型のみが12.3%で帯状に比してコルセット型の着用は未だ少ないようである。

5 腹帯に祝文字・絵の書いてあったものは40.5%、そのうち祝文字は88.4%、絵は7.0%、文字と絵は4.6%で文字が非常に多い。

6 祝文字は「寿」が最も多く82.3%で、地区別では中国が82.5%で最も多い。

7 絵は「犬」が最も多く81.0%で、地区別にみると、中国は「犬」が最も多く100%、次は近畿の93.0%である。「その他」の松・竹・梅は東北、赤ちゃんと鈴は関東、観音さまは四国、紋は中部、つるは近畿、のみにみられ、それぞれ地区の特徴があらわれている。

8 「自分で買った」のは40.0%、「実家から」28.3%、「自分と実家」11.9%、「婚家から」5.5%で婚家からはきわめて少ない。

また、むかしから仲人が祝の意をこめておくる風習があると云われているが、全国の調査では仲人がおくれたのは僅か1.2%である。

9 さらし木綿の帯状腹帯を持っているのは85.5%、その他、白絹・紅絹などがあるが、これらは実際には着用されていない。

10 帯状2本持っているのが37.5%と最も多く、次は帯状1本とコルセット型1枚を持っているもので22.8%である。

腹帯を着用することについて「医学的には、それほど効果はない」との無用論もあるが、現状では非常に多くの人が着用しており、また、迷信・風習なども根強く残っているようである。

今後、引続き今回報告した以外の項目の集計整理を

し検討をすすめ、現在の妊産婦の衣服についての着用実態を正しく把握し、これからの妊産婦の衣服について検討したいと思う。

終りに、このアンケート調査によく協力して下さいました各地区の保健所・大学、回答をお寄せ下さった方々、また、本研究に終始御懇切なる御助言御協力をいただきました元日本看護協会保健部会神奈川県支部長伊吹マサ子先生に深く感謝いたします。

文 献

- 1 松山栄吉 腹帯の効用とその疑義 助産婦雑誌 1968, 22巻, 9:40~48
- 2 松永 勝 戌の日の腹帯 月刊ふくやま 1967, 3月号
- 3 木下正一他 妊婦 被服の周辺 母性保護医報 1971, 2月号, 6~7
- 4 光岡栄子他 腹帯について 広島女学院大学短期大学部家政学会誌 1978, 17, 23~26
- 5 森末義彰・日野西資孝編 風俗辞典 東京堂出版 1960, 35

Summary

In order to grasp the actual conditions of clothes worn by pregnant women and nursing mothers, we made a questionnaire survey in the seven districts of the whole country (Hokkaido, Tokyo and 23 prefectures) between March and May, 1976.

2,186 women in their 20th~50th who had experienced delivery were questioned through the Health Centers in the seven Districts of Hokkaido, Tohoku, Kanto, Chubu, Kinki, Chugoku and Shikoku-Kyushu.

The present paper is to report the results of our examination into the data concerning belly-bands, the actual conditions of how belly-bands are worn and the wearers' sense toward them. The results obtained are as follows.

1. 98.8% of the questionees wore belly-bands in their pregnancy. Non-wearers were only 1.1%. No answer was obtained from the rest (0.1%).

2. The great majority (85.5%) started wearing belly-bands in the fifth month of pregnancy. Seen by the district, it was found that, in such cold districts as Hokkaido and Tohoku, about 10% began to wear belly-bands in the third or fourth month of pregnancy.

3. 71.3% started wearing a belly-band on the day of the Dog. This custom was most commonly seen in the Chugoku and Shikoku-Kyushu Districts where the rate amounted to about 22% of the 71.3% respectively.

4. 56.2% wore long, narrow strips of cloth alone for belly-bands, while 26.9% used corsets for pregnant women as well as strips of cloth and 12.3% used corsets alone. The rest (4.6%) wore other forms of belly-bands such as common health-bands.

5. 40.5% wore belly-bands with words or pictures of celebration drawn on them. Of the 40.5%, the great majority (88.4%) wore belly-bands with words alone, 7.0% with pictures alone and 4.6% with both words and pictures.

6. Of the words of celebration written on the belly-bands, *Kotobuki* (寿) was the commonest (82.3%). It was seen most commonly in the Chugoku and Kanto Districts where the rate amounted to 27.5% and 23.2% of the 71.3% respectively.

7. As for the pictures of celebration, dogs were most popular (81.0%).

8. In spite that belly-bands are sometimes said to be of little use from medical point of view, they are still worn as they were by many pregnant women and there firmly remain superstitions and customs about them. It should be noted, however, that corsets for pregnant women have come to be used fairly widely.